

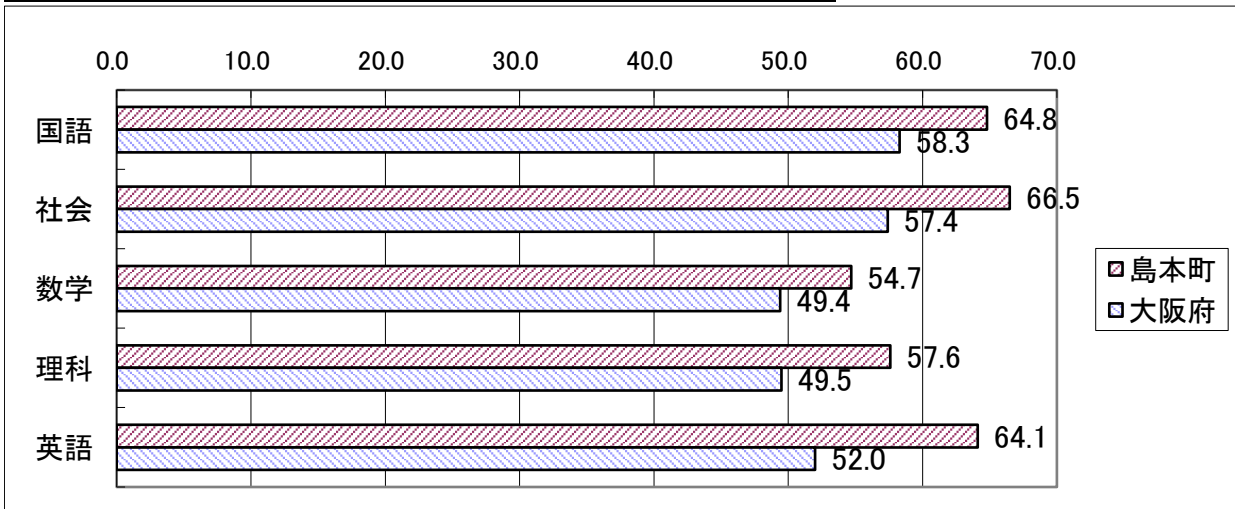
令和3年度 大阪府中学生チャレンジテスト結果概要<2年生-①>

島本町教育委員会

1. 実施日時: 令和4年1月13日(木)
 2. 対象・内容: 第2学年<国語・社会・数学・理科・英語、生徒アンケート>

1. 教科別結果概要(平均点)

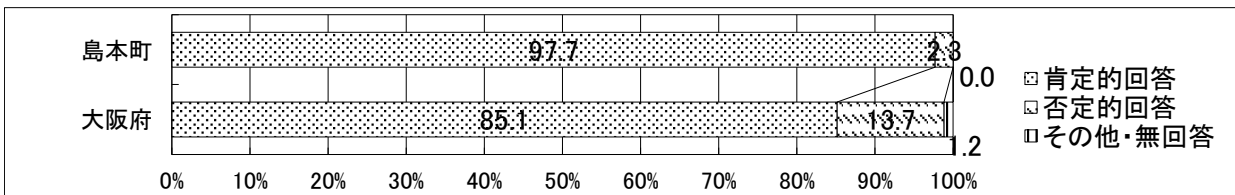
	国語	社会	数学	理科	英語
島本町	64.8	66.5	54.7	57.6	64.1
大阪府	58.3	57.4	49.4	49.5	52.0



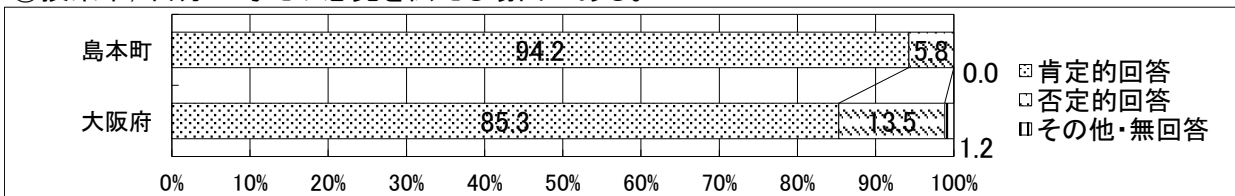
※社会・理科は選択問題で実施

2. アンケート(抜粋)

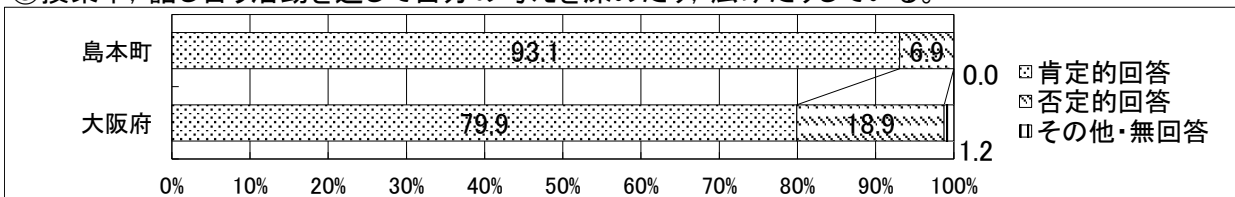
①授業中, ノートやプリントに自分の考えを書く場面がある。



②授業中, 自分の考えや意見を伝える場面がある。



③授業中, 話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり, 広げたりしている。



令和2年度 大阪府中学生チャレンジテスト結果概要〈2年生-②〉

3. 分析等

- ・ 教科別学習状況については、いずれも府の平均正答率を上回った。無解答率についても、どの教科も概ね府の平均を下回るなど、解答状況は良い。特に英語は、府の平均を12.1ポイントも上回っており、特例校としての成果が出ている。また、中学2年生から、英検の受験者数が大幅に増加することからも、英語に対する関心や意欲の高さがうかがえる。
- ・ 生徒アンケートの結果より、自分の考えを「ノートやプリントに書く時間」「伝える場面」「話し合う活動を通じて深めたり、広げたりしている」のいずれの肯定的回答が90%以上となっており、府平均より高い。さらには、各アンケート項目とも、肯定的回答の中でも、強い肯定を示す回答をしている生徒が多い。このことは、新学習指導要領の内容でもある「主体的・対話的で深い学び」が実現されていると考えられる。
- ・ 同学年の国語・数学・英語について、対府比(府を「1」とした時の割合)では、前年度(1年次)より3教科とも上回った。

これらのことを踏まえ、新学習指導要領の内容を取り入れ、指導内容と学習評価、生徒の学習意欲等、複合的な観点から授業研究を進めていく必要がある。